

動かしがたい深刻な与条件：人口減少、少子高齢化…

今後10年の喫緊の課題：低炭素社会、財政健全化…

京都市基本構想に おける関連記述

大学



～活力あふれるまち～

まちがにぎわい、若いひとたちがいきいきと学び
働ける場が増えるとともに、世界のひとびとがこの
地に集まり、ここを舞台にみずからの能力を十分発揮できる機会も増える。

これまでの主な取組

- ・(財)「大学コンソーシアム京都」設立(平成10年)
- ・京都市大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)の設置(平成12年)
- ・京都学生祭典開催(平成15年)
- ・大学地域連携モデル創造支援事業開始(平成16年)
- ・「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」策定(平成18年)



大学地域連携
モデル創造
支援事業認定式



京都学生祭典
本祭
総踊り

論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(追い風)は？ 放置できない問題(向かい風)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきこと(課題)は？

外部環境分析(施策を推進するうえで、追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況)	
追い風	向かい風
○国の「留学生30万人計画」の方針にのっとった、留学生増加への気運	○18歳人口の減少 ○全国的な大学・短大の定員割れ傾向(私立大学のうち既に5割近い四年制大学)
京都の現況分析(他都市等と比較して、京都の現況が優位又は劣位である事項)	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
○大学キャンパスの市内への回帰 ○市内37大学・短期大学のスケールメリットと(財)大学コンソーシアム京都による大学連携の力 ○単位互換制度、インターンシップ等の先駆的な取組による、「大学のまち京都」の魅力とブランド力 ○昭和60年代より推進してきた「大学のまち京都」の施策の実績 ○大学と地域との連携が進んでいる ○京都のまちの活性化の一翼を担う学生は、人口の約一割を占める ○ベンチャーの都・京都としての、産学公連携	○市内での土地の確保や、京都の景観やまちづくりと整合したキャンパス整備への支援 ○大学の国際化及び留学生誘致に向けた、国際社会への「大学のまち京都」の発信 ○留学生の増加に見合った留学生用宿舍の確保 ○留学生との共生についての市民の理解

論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え、価値観は？

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」

<「大学まち京都」「学生のまち京都」推進の意義>

- 学術研究都市としての都市格の向上
- 産業・経済効果
- 優秀な人材の集積及び輩出
- 地域の教育力の向上
- 文化・芸術等の振興
- 学生と地域との連携による、まちのパワーの向上

<目指すべきビジョン>

世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」

<施策の推進>

- 学生の確保に向けた「学びの環境」の充実
- 大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の受入拡大と国際社会に対応した人材の育成
- パワーあふれる「学生のまち京都」の実現
- 産学公地域連携の推進による京都地域の活性化

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

論点4 10年後に目指すべき姿

- ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？